

後志管内の「海業」について

これまで後志管内では、ニシンやサケなどの水産物により、地域の水産業が支えられてきました。しかし後志総合振興局によると、令和7年の後志管内の漁業生産は、数量が約3万2千トンと前年に比べて21%の減少となる見込みが発表されています。当所の経済調査では、秋サケなどの不漁により、後志管内の水産業従事者からは、円滑な企業活動が影響を受けているという声が聞かれているほか、漁村の人口減少や漁業者の後継者不足などの課題も聞かれています。こうした現状を踏まえ、後志管内では、漁港を活用した養殖や、水産物の販売促進活動及び観光などと連携して水産業を身近に感じられる取り組みなどが「海業」として行われています。今回は、この「海業」の取り組みについて、後志管内の状況を紹介させていただきます。

1. 海業とは

海や漁村の地域資源の価値や魅力を活用する事業であって、国内外からの多様なニーズに応えることにより、地域のにぎわいや所得と雇用を生み出すことが期待されるもの。 水産庁ホームページ「海業について」

水産庁では、地域の理解と協力の下、水産物の消費増進や交流促進など、地域の水産業を活性化する海業の取り組みを促進している。

水産庁による海業推進の取り組み内容の例

「海業の推進に取り組む地区」等の決定

…水産庁が個別に助言や情報提供を行い、海業の取り組みを積極的に支援する。海業振興のモデル地区を決定する。

全国86団体のうち、北海道は10団体、うち後志管内は6団体(R8.1時点)

漁港施設等活用事業制度

…漁業上の利用を確保したうえで、漁港施設等を活用し、地域交流や水産物の消費を促進する計画を策定。

全国7団体で計画が策定され、北海道は該当なし(R8.1時点)

海業の主な取り組み

■海業の場として漁港を活用



水産物販売施設



岸壁前に立地するレストラン



漁業体験



漁村の魅力を活かした宿泊(渚泊)



釣り体験



調理体験

2. 後志管内の「海業」の推進について

(1) 後志管内での水産庁の取組

- 後志管内で、全国で初めての「海業マッチング会（※）」を開催した。
（※）行政・漁業者・企業など、多様な主体が直接交流し、連携の可能性を見いだす場
- 祝津・古平・美国漁港を活用した取組みの検討や体験型ツアーの展開に向けて、旅行会社等の民間企業との意見交換会を行った。

(2) 後志管内の「海業の推進に取り組む地区」

後志管内では、6団体（7漁港）が「海業の推進に取り組む地区」に決定している。

画像：官民連携海業振興ポータルサイト

お申込みはコチラ
10月24日締切(応募30名)
定員が満ちますので、お申し込みは早いほどに
お申し込みください。

北海道
後志地域
**海業
マッチング会**

小樽・古平・積丹の現場を体感できる！
地域の漁場・文化・観光資源を一目で知る！
地元漁業者・行政・企業と直接交流！
新規事業・連携のきっかけを発見！

参加費
無料

各日程のみどころ！
小樽市博物館：歴史と文化を学ぶ
祝津漁港：海の学校・体験館を見学
古平漁港：フリのブランド化の取組
美国漁港：積丹ブルーの海と地域活性化事業
意見交換会：企業×地域で新しい可能性を探る

詳細はこちら。官民連携海業振興ポータルサイト
http://sea.brains.jp/

2025.11.07 金

09:00-17:30
小樽運河プラザ前広場集合
(8:55集合)

対象：企業・団体・行政関係者など
海業に心のある方

定員：先着30名（1団体2名まで）

主催：北海道（官民連携推進）ランドブレイン株式会社
お問い合わせ先：ランドブレイン株式会社 国土開発グループ（担当：船橋）
TEL：05-3263-9388 / email: gyoson@landbrains.co.jp

公表年度	市町村名	漁港名	取組み内容（実施検討中を含む）
令和6年3月	寿都町	寿都漁港	水産業と関連産業（水産品加工業、小売業、観光業等）との相互連携、取引強化による地域経済の活性化（所得、雇用の拡大） ※「 <u>海業振興モデル地区</u> 」にも選定されている（注1）
	泊村	盃漁港 (カブト地区)	漁港を活用したトラウトサーモン「北海道とまりカブトサーモン」の海面養殖による所得向上・加工品開発等、水産物の消費増進
	神恵内村	神恵内漁港	漁港用地を活用したウニの陸上養殖施設や見学施設、加工品販売所の整備
	古平町	古平漁港	漁港を核とした教育学習や観光プログラム等“遊・食・泊”の取組 ※「 <u>実証的に海業の計画策定に取り組む地区</u> 」となっている（注2）
令和7年3月	積丹町	美国漁港	物販、食提供・体験機能を備えた海業交流拠点の形成
		余別漁港	藻場造成支援、漁村体験観光等の機能を備えた海業振興拠点の形成
	小樽市	祝津漁港	旬の地魚で地域水産物を学ぶ拠点「おたる海の学校」

※ 記載順は、「海業の推進に取り組む地区」に決定した順

（注1）「海業振興モデル地区」は、海業振興のモデル形成に取り組む意欲のある地区(モデル地区)を募集し、海業の事業化の検討支援を行うもの。令和5年3月に選定されている。

（注2）「実証的に海業の計画策定に取り組む地区」は、「海業の推進に取り組む地区」のうち、海業を普及・促進するに当たっての新たな知見として横展開を図る必要がある取組を中心に抽出されたもので、水産庁と連携して実証的に新たな海業の取組計画策定を推進することとされている。



(3) 後志管内の「海業」の推進の取り組み例

祝津漁港（小樽市）

- ・旬の地魚を活用して地域の水産物を学ぶ取り組みで、小・中学生を対象としたもの。
- ・令和7年8月に初めて開催。各回で学ぶテーマとなる魚種が決まっている。



(開催実績)
 令和7年8月「ウニ」
 令和7年11月「シャコ」
 令和8年2月「ニシン」
 (開催予定)
 令和8年4月「海藻」



画像：NPO法人おたる祝津たなげ会

盃漁港(カブト地区) (泊村)



ぎょつこん



うみぎよ

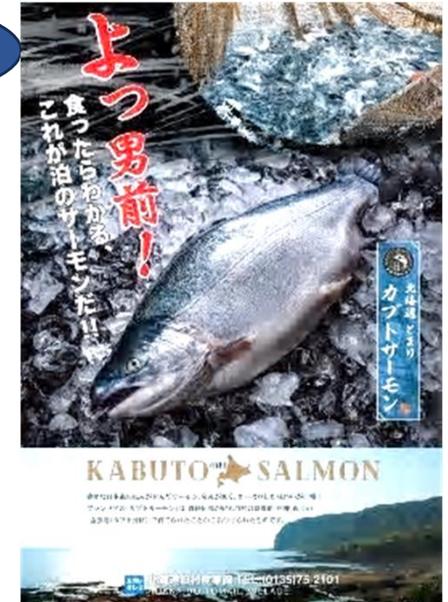


うみにゃーご

画像：水産庁「漁港マスコットキャラクター」

ふるさと納税
返礼品にも活用！

- ・養殖港として位置づけ、トラウトサーモンの海面養殖を実施。
- ・漁業者の所得向上や加工品開発等により、水産物の消費増進を目指す。



画像：泊村

3. まとめ

- ・海業という取り組みを調査した結果、地域の水産物を維持するのみならず、雇用創出や観光との結びつきなど、水産物を守りながら地域の活性化を目指す様々な取り組みが実施・検討されていることが分かりました。
- ・水産資源の減少、漁村の人口減少や高齢化といった逆境の中、これまでも、そしてこれからも後志管内の水産物を支えている漁港が関係各所と連携し、地域を活性化している様子に今後も着目し、調査を行っていききたいと思います。